

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 6 月 23 日現在

機関番号：62501

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2016～2019

課題番号：16H03485

研究課題名（和文）史料学的検討を重視した『延喜式』の基礎的研究

研究課題名（英文）Fundamental Study of Engishiki, with emphasis on archival and manuscript research

研究代表者

小倉 慈司 (OGURA, Shigeji)

国立歴史民俗博物館・大学共同利用機関等の部局等・准教授

研究者番号：20581101

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 14,160,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、古代の法制書である『延喜式』について、最新の史料学を踏まえて新たな本文データを提供し、『延喜式』研究を進展させることを目的とした。10世紀に成立した『延喜式』は「古代官人の業務マニュアル」であるが、古写本に限られていることに加え、分量が多く、内容が多岐にわたることもあって、これまで江戸時代の版本を基礎として研究が進められてきており、現在から見ると、検討を要する箇所が少なくない。そこで本研究では『延喜式』の写本および版本にさかのぼって再検討を加え、幾つかの巻について実際に新たな校訂本文を作成した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

『延喜式』巻5、9、10、14、17についてその写本系統を分析し、国立歴史民俗博物館所蔵土御門家旧蔵本の位置を確認した。これによって、今後、全巻にわたり新たな校訂文を作成し、学界に提供することができる。『延喜式』は古代史の基本史料であるのみならず、全国の産物、諸物品の原材料、全国の神社・地理情報など様々な情報が掲載されており、そのテキストの再検討は、水産・植物・工芸など様々な分野の研究に影響を及ぼすことになる。『延喜式』はいわば「古代の百科全書」であり、その情報は様々な分野に活用することができる。

研究成果の概要（英文）： This study aimed to progress the study of Engishiki, an ancient legislative material, by providing new textual data based on the latest historical research of manuscripts. Engishiki established in the tenth century is somewhat like a “business manual for ancient officials.” The old manuscripts are limited in number and also because of its large volume and a wide variety of contents, studies of Engishiki were conducted from prints of Edo period. From the present however, there are many points that need to be examined. Therefore, in this study, we retrospectively reviewed the manuscripts and prints of Engishiki, and created a critical edition of some scrolls.

研究分野：日本古代史

キーワード：延喜式 本文研究 日本史 古代史 史料学

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

『延喜式』は古代の基本史料として著名な史料ではあるが、これまでそのテキストとしては、一般に歴史史料の基本的叢書である新訂増補国史大系所収本(1937年刊)が長らく用いられ、1990年代にいたってようやく新たな校訂本が作成され神道大系に収録されたものの、いずれも江戸時代の享保8年(1723)頃に刊行された享保版本を底本としたものであった。『延喜式』は正保4年(1647)に刊行されて以来、数度にわたって版本が刊行されたが、享保版本はそのうちもっとも流布した版本である。しかしそのもととなった写本は明らかになっておらず、またどのように校訂がなされたのかという点についても不明なままであり、問題を抱えている。

その後、土御門家旧蔵写本が国立歴史民俗博物館に収蔵されるようになったこともあり、2000年代に入ってから刊行された注釈書である訳注日本史料では、初めて同写本が底本に選ばれた。しかし残念ながら写本それ自体および写本系統についての研究は十分に深められなかったため、従来の校訂に引きずられたものとなっている。すなわち写本・版本研究およびテキスト校訂が『延喜式』研究の課題として残されている。

また、近年、これまで知られていなかった京都国立博物館所蔵本が田島公氏によって新たに紹介されたことも見逃せない。同写本は江戸期の新写本ではあるものの土御門家旧蔵本と並ぶ良質な写本であり、それらを活用しつつ、写本系統を踏まえた本文研究を進めていく必要がある。

2. 研究の目的

古代の法制書『延喜式』は、延長5年(927)に完成し、康保4年(967)に施行された古代の基本史料の一つであるにもかかわらず、全50巻、条文数にして約3500条にも及び、内容が多岐にわたることもあって、これまでの研究や翻刻では必ずしも十分な校訂がなされずに使用されるなど、様々な問題を抱えている。

そこで本研究では、京都国立博物館所蔵本など近年新たに紹介された写本も検討対象に加え、目録学や史料群研究、また近世の版本刊行・受容史研究など、最新の史料学研究成果を踏まえつつ、新たな本文校訂を行なうことを目指す。新しい校訂本文を学界に提供することによって『延喜式』研究の基礎を固めるとともに、今後の『延喜式』研究の発展に結びつけていく。

3. 研究の方法

本研究では、初めに以下の課題を設定した。

『延喜式』諸写本の写本系統研究

12世紀以前の書写とされる九条家旧蔵卷子本や金剛寺所蔵本等の古写本の他、国立歴史民俗博物館所蔵土御門家旧蔵本・京都国立博物館本・国立公文書館所蔵紅葉山文庫本・宮内庁書陵部所蔵藤波家旧蔵本・同部所蔵壬生家旧蔵本・天理大学附属天理図書館所蔵梵舜本等の近世写本を調査、紙焼写真を蒐集し、写本系統を探る。九条家旧蔵卷子本が祖本である巻13を除き、近世写本の多くが現在は失われた一条家本に由来するのではないかとの推測がある。土御門家旧蔵本と他の近世写本、部分的に残る一条家本の影写本との異同を詳細に比較検討していくことにより、これを具体的に検証することが課題である。

『延喜式』写本・版本書入れの調査研究および『延喜式』受容史の研究

写本・版本に書き入れられた校合や按文等を調査することにより、古代以来近世にいたるまでの『延喜式』の受容、校訂史を明らかにする。現状の校訂の中には根拠を持たない版本の文字や書入れを無批判に取り入れている事例も少なくない。単に埋もれていた研究を発掘するというだけでなく、本文校訂のためにも必要な作業であり、の写本系統研究にも資すると考えられる。一方、書入れは、それがなされた時期や経緯を探ることにより、『延喜式』の理解にとどまらず、それが付された事柄等の歴史の変遷を解明する上での貴重な歴史情報でもある。諸本の書入れを総合的に検討することで、前近代の文化史・技術史といった分野の研究にも結びつけていきたい。

校訂本文作成

の調査結果をもとに、現在の研究水準を踏まえた『延喜式』校訂本文を作成し、その成果を公表する。

4. 研究成果

写本では、京都国立博物館所蔵本、天理大学附属天理図書館所蔵梵舜本・梵舜別本・吉田家旧蔵卷子本神名帳・梵舜筆神名帳・礼服制等、京都大学附属図書館所蔵近衛家旧蔵本、宮内庁書陵部図書寮文庫所蔵壬生家旧蔵本・藤波家旧蔵本、國學院大学図書館所蔵三条西家旧蔵神名帳、国立公文書館所蔵慶長写本・林家旧蔵本、前田育徳会尊経閣文庫所蔵本、静嘉堂文庫所蔵西洞院時慶筆抄出本等、版本では大和文華館所蔵鈴鹿文庫本、宮内庁書陵部図書寮文庫所蔵勢多家旧蔵本、

天理大学附属天理図書館所蔵狩谷棟斎旧蔵本、刈谷図書館所蔵村上文庫本、筑波大学中央図書館所蔵寛文版本・享保版本等、『延喜式』の主要写本・版本をほぼ調査・紙焼写真蒐集することができた。

版本では、鈴鹿文庫本に現在は失われた壬生家旧蔵本巻一～五に関しての書入れがなされており、また勢多家旧蔵本にも有益な校合書入れがなされていることが注目される。ただし無窮会専門図書館所蔵本については、研究開始年度当初より同館が耐震工事のため休館し、その後、一時再開したもののまもなく再度休館したため、期間内に調査を実施することができなかったが、幸い同本の紙焼写真帳の提供を受け、それによって写本系統を検討することができた。

これらによって、近衛家旧蔵本が書写時期は下るものの、以前より善本とされている国立歴史民俗博物館土御門家旧蔵本と大変近い関係にあること、巻5については近世写本はすべて同一系統であり、それは一条家卷子本とも近い関係にあること、九条家冊子本や一部の版本にそれら現存の近世写本とは別系統の写本による書入れがなされていることなどが判明した。ただし土御門家旧蔵本の書写態度が巻によって異なることもあり、巻9・10の近世写本の中では、京都国立博物館本および壬生家旧蔵本がより良質な写本と判断される。ちなみに巻9・10近世写本の祖本は文亀3年(1503)吉田兼俱進献本である(巻9・10についての考証論考は小倉慈司「『延喜式』巻九・一〇の写本系統」として脱稿済みであるが刊行が遅れており、2020年4月現在未刊)。以上のような写本系統の考察に基づき、一部の巻について新たな校訂本文を作成することができた。

この他、『延喜式』を引用する『政事要略』等の書物についても調査・紙焼写真蒐集を進めた。天理大学附属天理図書館所蔵の『神祇官八神殿秘決』は西田長男氏による研究があるものの、中世神道書と捉えられていたことにより、これまでさほど注目されてこなかったが、『延喜式』写本の伝来を考える上で重要な記述を有していることが判明し、調査を実施した。その成果は小倉慈司「『延喜式』巻九・一〇の写本系統」で簡潔に触れた他、2019年11月皇学館大学史学会講演「延喜神名式と式内社」で紹介した。

本文研究を進めるためには、『延喜式』の内容そのものについても検討していく必要がある。本研究で進めた内容に関わる研究として、幾つか挙げると、例えば、「長鯨」の加工法についての研究、典薬式に見える薬物名から朝鮮半島医薬文化の影響を探る、齋宮式から堅魚製品の貢納と消費の実態を明らかにする、土器名称の研究等である。また縫殿式13雑染用度条を取り上げ、江戸時代における『延喜式』研究等についても検討を行なった。

また人間文化研究機構基幹研究プロジェクト総合書物学「古代の百科全書『延喜式』の多分野協働研究」ユニットと連携し、延喜式関係論文目録データベースの作成に協力した。同データベースは2019年3月に第一次公開として14,185件のデータを公開し、同年8月に4,220件のデータを追加した。その後も作業を継続しており、2020年度前半期にさらにデータを追加公開する予定である。

2019年度には、新たな研究の展開を目指し、海外日本史研究者の育成にも取り組んだ。院生を含む3名のアメリカ在住研究者を招き、ワークショップを開催した。

論文以外の主な成果発信としては、2016年に国立歴史民俗博物館にて特集展示および歴博フォーラム「『延喜式』ってなに!？」を実施し、2017年には文科省庁舎エントランス展示を実施した。2018年には歴博のモバイルミュージアム展示企画として「古代国家とアワビ～『延喜式』にみる生産と貢納～」を制作し、2019年にかけて数回にわたり展示した。また2020年3月には歴史系総合誌『歴博』219号にて「ひろがる『延喜式』」の特集を組み、「神社の歴史と『延喜式』」(早川万年)、「謎の発酵食品“豉(くき)”」(荒井秀規)、「『延喜式』と水産研究 古代の水産食品に関する他分野協働研究への挑戦」(清武雄二・石川智士)、「『延喜式』と陵墓設定の意味」(仁藤敦史)、「The Power of Engishiki 『延喜式』の国際発信」(山口えり)を掲載した。

以上のほか、毎年1～2回、公開の研究集会を実施した。これには大学院生等も参加し、若手研究者の育成に役立てることができた。

今後、まだ未作成の巻の校訂を進め、人間文化研究機構基幹研究プロジェクト「総合資料学の創成」および「古代の百科全書『延喜式』の多分野協働研究」で準備を進めている「延喜式データベース」(仮称)にてネット公開を進める予定でいる。「古代の百科全書『延喜式』の多分野協働研究」では、本研究の成果を踏まえ、『延喜式』現代語訳も進めている。

これにより、他分野の研究者も『延喜式』が利用しやすくなり、『延喜式』を活用した新たな研究に結びつくことが期待される。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計21件（うち査読付論文 13件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 11件）

1. 著者名 小倉慈司	4. 巻 181
2. 論文標題 古代文献史料本文研究の課題 『延喜式』を中心に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 九州史学	6. 最初と最後の頁 28-55
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 仁藤敦史	4. 巻 20
2. 論文標題 倭国における政治空間の成立 - 都市と王権儀礼 -	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 唐代史研究	6. 最初と最後の頁 105-128
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 清武雄二	4. 巻 204
2. 論文標題 『延喜式』にみえるアワビに関する復元資料 - 一人分の長鯨貢納量 -	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 歴博	6. 最初と最後の頁 20-23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 清武雄二	4. 巻 209
2. 論文標題 古代における長鯨（製斗鯨）製造法の研究 - 加工実験・成分分析による実態的考察 -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 19-41
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 早川万年	4. 巻 817
2. 論文標題 詔勅官符と式条文	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 日本歴史	6. 最初と最後の頁 57-64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 仁藤敦史	4. 巻 26
2. 論文標題 欽明期の王権と出雲	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 出雲古代史研究	6. 最初と最後の頁 1-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小倉慈司	4. 巻 186
2. 論文標題 特集展示『延喜式』ってなに!?	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館友の会ニュース	6. 最初と最後の頁 1-2
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小倉慈司	4. 巻 200
2. 論文標題 『延喜式』ってなに! ? 古代の百科全書『延喜式』の多分野協働研究	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 歴博	6. 最初と最後の頁 26-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中村光一	4. 巻 40
2. 論文標題 平安前期における近衛大将の補任について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本史学集録	6. 最初と最後の頁 45-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 早川万年	4. 巻 218
2. 論文標題 延喜神祇式の本文校訂について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 31-40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小倉慈司	4. 巻 218
2. 論文標題 『延喜式』巻一七の写本系統と本文校訂	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 103-125
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中村光一	4. 巻 218
2. 論文標題 江戸時代における『延喜式』研究の様相 - 縫殿式十三雑染用度条をめぐる -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 255-278
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 三上喜孝	4. 巻 218
2. 論文標題 慶州・雁鴨池出土の薬物名木簡再論 - 古代東アジアの医薬文化 -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 299-307
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 酒井清治	4. 巻 218
2. 論文標題 主計式のニと出土土器のハソウ	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 413-423
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 仁藤敦史	4. 巻 218
2. 論文標題 「延喜斎宮式」から見た堅魚製品の貢納と消費	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 413-423
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小倉慈司	4. 巻 691
2. 論文標題 皮革生産賤視観の発生	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本史研究	6. 最初と最後の頁 1-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小倉慈司	4. 巻 218
2. 論文標題 『延喜式』巻五校訂(稿)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 41-68
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 清武雄二	4. 巻 218
2. 論文標題 古代の税物生産における長鯨 - 品種・製造法・保存期間の検証実験 -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 425-444
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 清武雄二・神戸航介・堀部猛・古田一史	4. 巻 218
2. 論文標題 『延喜式』巻十七「内匠寮」現代語訳(稿)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 127-154
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小倉慈司	4. 巻 840
2. 論文標題 書評 矢野建一著『日本古代の宗教と社会』	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 歴史評論	6. 最初と最後の頁 77-81
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 仁藤敦史	4. 巻 839
2. 論文標題 書評 古市晃著「古代国家形成期の王宮と地域社会」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 歴史評論	6. 最初と最後の頁 70-74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計18件 (うち招待講演 8件 / うち国際学会 1件)

1. 発表者名 小倉慈司
2. 発表標題 「古代の百科全書『延喜式』の多分野協働研究」の活動
3. 学会等名 シンポジウム「書物を耕す 総合書物学の挑戦」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 清武雄二
2. 発表標題 『延喜式』にみえる水産貢納物の研究
3. 学会等名 シンポジウム「書物を耕す 総合書物学の挑戦」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 清武雄二
2. 発表標題 『延喜式』に見える貢納食材とその加工法
3. 学会等名 第3回日本語の歴史的典籍国際研究集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 小倉慈司
2. 発表標題 古代文献史料研究の課題 『延喜式』を中心に
3. 学会等名 九州史学研究会大会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 中村光一
2. 発表標題 高崎の古社を訪ねて 「神社」でたどる郷土の歴史
3. 学会等名 高崎郷土史会文化講演会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 仁藤敦史
2. 発表標題 『延喜式』からみた陵墓の体系 陵墓と前方後円墳
3. 学会等名 文部科学省「情報ひろばラウンジ」講演会「『延喜式』から読み解く古代の社会と文化」
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 清武雄二
2. 発表標題 古代の長鏡を復元する 『延喜式』記載の貢納品研究
3. 学会等名 文部科学省「情報ひろばラウンジ」講演会「『延喜式』から読み解く古代の社会と文化」
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 小倉慈司
2. 発表標題 常胤が献じたご馳走
3. 学会等名 千葉氏フォーラム 千葉常胤の元旦の祝膳 現代につながる鎌倉時代の「食」文化
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 清武雄二
2. 発表標題 古代の鰯取体制とその展開
3. 学会等名 国史学会大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 仁藤敦史
2. 発表標題 倭国における政治空間の成立 - 都市と王権儀礼 -
3. 学会等名 唐代史研究会夏季シンポジウム
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 早川万年
2. 発表標題 延喜式の本文校訂について
3. 学会等名 名古屋古代史研究会例会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 酒井清治
2. 発表標題 生産の考古学 - 窯業 -
3. 学会等名 日本考古学協会第85回(2019年度)総会(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小倉慈司
2. 発表標題 江戸時代における古代典籍の伝来 政事要略を中心に
3. 学会等名 逢左文庫典籍研究会講演会(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小倉慈司
2. 発表標題 古代の天皇と神祇祭祀
3. 学会等名 天皇制と日本 - 歴史、政治、社会、文化との関わりをめぐって - 学術シンポジウム(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小倉慈司
2. 発表標題 延喜神名式と式内社
3. 学会等名 皇學館大学史学会講演会(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小倉慈司
2. 発表標題 皮革生産賤視觀の発生
3. 学会等名 日本史研究会古代史部会例会（大会個別報告代替報告）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 仁藤敦史
2. 発表標題 古代国家と讓位制の成立 - 「平成の代替わり」を古代史から考える -
3. 学会等名 シンポジウム「天皇と皇位継承のコスモロジー」（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 仁藤敦史
2. 発表標題 太上天皇の成立と展開 - 皇極・孝謙・斉明の事例を中心に -
3. 学会等名 國學院大學文化講演会（招待講演）
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計18件

1. 著者名 小島道裕・田中大喜・荒木和憲編、小倉慈司、仁藤敦史、三上喜孝ほか	4. 発行年 2020年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 432
3. 書名 古文書の様式と国際比較	

1. 著者名 川尻秋生編、仁藤敦史ほか	4. 発行年 2019年
2. 出版社 竹林舎	5. 総ページ数 532(17-39)
3. 書名 古代の都城と交通	

1. 著者名 白石太一郎先生傘寿記念論文集編集委員会編、仁藤敦史、酒井清治ほか	4. 発行年 2019年
2. 出版社 山川出版社	5. 総ページ数 484
3. 書名 古墳と国家形成期の諸問題	

1. 著者名 新古代史の会編、小倉慈司	4. 発行年 2020年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 231-240
3. 書名 テーマで学ぶ日本古代史 社会・史料編	

1. 著者名 仁藤敦史(編)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 竹林舎	5. 総ページ数 557
3. 書名 古代王権の史実と虚構	

1. 著者名 小倉慈司 (共著)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 同成社	5. 総ページ数 308(213-229)
3. 書名 古代史料を読む 下	

1. 著者名 稲田奈津子 (共著)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 竹林舎	5. 総ページ数 517(438-469)
3. 書名 律令国家の理想と現実	

1. 著者名 早川万年, 小倉慈司 (共著)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 竹林舎	5. 総ページ数 550(302-323, 324-361)
3. 書名 古代の信仰・祭祀	

1. 著者名 鈴木靖民・金子修一・田中史生・李成市編	4. 発行年 2017年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 592(内455-466)
3. 書名 日本古代交流史入門	

1. 著者名 岐阜県博物館編	4. 発行年 2017年
2. 出版社 岐阜県博物館	5. 総ページ数 75(内4-7)
3. 書名 壬申の乱の時代 美濃国・飛騨国の誕生に迫る	

1. 著者名 新川登亀男編	4. 発行年 2018年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 862(内192-217)
3. 書名 日本古代史の方法と意義	

1. 著者名 佐藤信編	4. 発行年 2018年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 566(内164-192)
3. 書名 史料・史跡と古代社会	

1. 著者名 佐藤信・小口雅史編	4. 発行年 2018年
2. 出版社 同成社	5. 総ページ数 322(内225-242)
3. 書名 古代史料を読む 上 律令国家篇	

1. 著者名 虎尾俊哉編	4. 発行年 2017年
2. 出版社 集英社	5. 総ページ数 1512(内2-43,476-539,686-93,1186-1205他)
3. 書名 訳注日本史料 延喜式 下	

1. 著者名 国立歴史民俗博物館編	4. 発行年 2016年
2. 出版社 国立歴史民俗博物館	5. 総ページ数 61
3. 書名 『第102回 歴博フォーラム 『延喜式』ってなに！？』	

1. 著者名 John Breen編	4. 発行年 2016年
2. 出版社 思文閣出版	5. 総ページ数 340 (内55-74)
3. 書名 『変容する聖地 伊勢』	

1. 著者名 今尾文昭・高木博志編	4. 発行年 2016年
2. 出版社 思文閣出版	5. 総ページ数 304 (内87-108)
3. 書名 『世界遺産と天皇陵古墳を問う』	

1. 著者名 国立歴史民俗博物館編	4. 発行年 2017年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 180 (内114-119)
3. 書名 『 総合資料学 の挑戦 異分野融合研究の最前線 』』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

延喜式関係論文目録データベース https://www.rekihaku.ac.jp/doc/gaiyou/boed.html
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	三上 喜孝 (MIKAMI Yoshitaka) (10331290)	国立歴史民俗博物館・大学共同利用機関等の部局等・教授 (62501)	
研究分担者	仁藤 敦史 (NITO Atsushi) (30218234)	国立歴史民俗博物館・大学共同利用機関等の部局等・教授 (62501)	
研究分担者	中村 光一 (NAKAMURA Terukazu) (30237416)	上武大学・ビジネス情報学部・教授 (32301)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	清武 雄二 (KIYOTAKE Yuji) (50753737)	国立歴史民俗博物館・大学共同利用機関等の部局等・特任助教 (62501)	
研究分担者	酒井 清治 (SAKAI Kiyoji) (80296821)	駒澤大学・文学部・教授 (32617)	
研究分担者	早川 万年 (HAYAKAWA Mannen) (10218555)	岐阜大学・教育学部・教授 (13701)	
研究分担者	稲田 奈津子 (INADA Natsuko) (60376639)	東京大学・史料編纂所・助教 (12601)	
研究分担者	町 泉寿郎 (MACHI Senjuro) (40301733)	二松學舎大學・文学部・教授 (32664)	
研究分担者	小曾戸 洋 (KOSOTO Hiroshi) (90186693)	北里大学・東洋医学総合研究所・研究員 (32607)	